

関連資料：大仙市立大曲南中学校

■第23回環境美化教育優良校表彰事業 報告書より抜粋（活動概要・祝辞要旨）
（主催：公益社団法人食品容器環境美化協会
後援：文部科学省、農林水産省、環境省）

住民と取り組む地域の清掃活動が 世界の人々の笑顔につながる

文部科学大臣賞

おおまがりみなみ
秋田県 大仙市立大曲南中学校

市内を流れる雄物川と横手川の合流地点に位置する同校。田畑が広がる環境の中、20年以上にわたり地域に根差した活動を行っている。そのひとつがアルミ缶・古紙回収だ（①）。事前に生徒が手作りしたチラシを各戸に配布し、当日は高齢者宅に出向き積極的に回収を手伝う。また、校区の2つの小学校と道路周辺の清掃に励んだり、地域憩いの場である公園で、住民と協力して清掃を行ったりしながら交流を深めている（②）。こうした美化活動がベースとなり、ユネスコスクールに認定された2010年以降は、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点を重視。「食育」「エネルギー教育」「国際教育」をテーマに、活動を深化させている。食育では、給食残さで作った肥料を使って野菜栽培する過程で、地域の主産業が農業であることを再認識（③）。さらに、環境問題を扱った講演会を開催（④）。世界を舞台に活躍する講師の報告を受けて、その生の声を生かそうと、生徒は他国で起きている問題を自分事として捉え、より地域環境に関心が向くようになった。`Think Globally, Act Locally` の精神が胸に刻まれている（⑤）。



文部科学省 初等中等教育局
視学官 藤野 敦 様

受賞された皆様、誠におめでとうございます。環境問題は持続可能な社会を構築していく上で重要な課題です。新学習指導要領では、各教科等での環境教育に関する指導内容を充実しており、文部科学省としては、子どもたちが体験活動を通して環境に対する理解と関心を深め、具体的な行動に結びつけられるように、学校を始め家庭、地域などにおける環境教育の推進を図っていきたいと考えています。

今回、文部科学大臣賞を受賞された「秋田県大仙市立大曲南中学校」におかれましては、地域と連携しアルミ缶などの回収、清掃活動に長期にわたり取り組まれ、ユネスコスクールとしても、考え行動する環境教育を実践されています。環境教育が継続的に学べるカリキュラム体制を構築され、環境活動へと発展している点が高く評価されました。

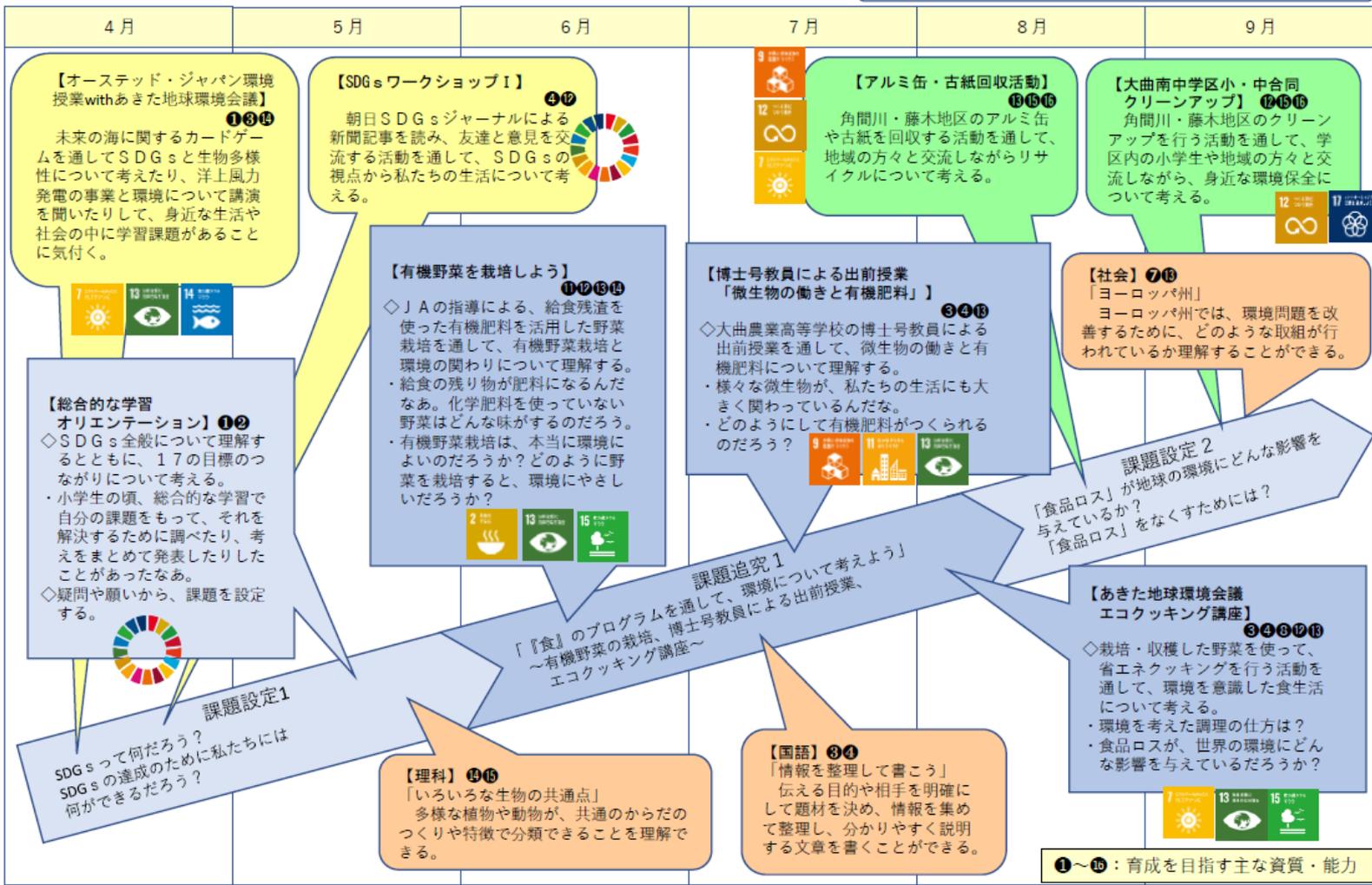
その他、自治体から推薦された各学校におかれましても、特色を生かした取り組みが継続、普及され、今後の環境教育の一層の充実発展に寄与することを心から期待しています。今回お集まりの皆さん、これから先の学校に進み、社会に出た時に、ぜひこういった活動の核となり、社会を変える活動の中心になっていただければ嬉しく思います。



■ESDストーリーマップ：同校ではESDの視点を取り入れ各活動を教育課程に位置付けている

第1学年ESDストーリーマップ「食と環境」(1)

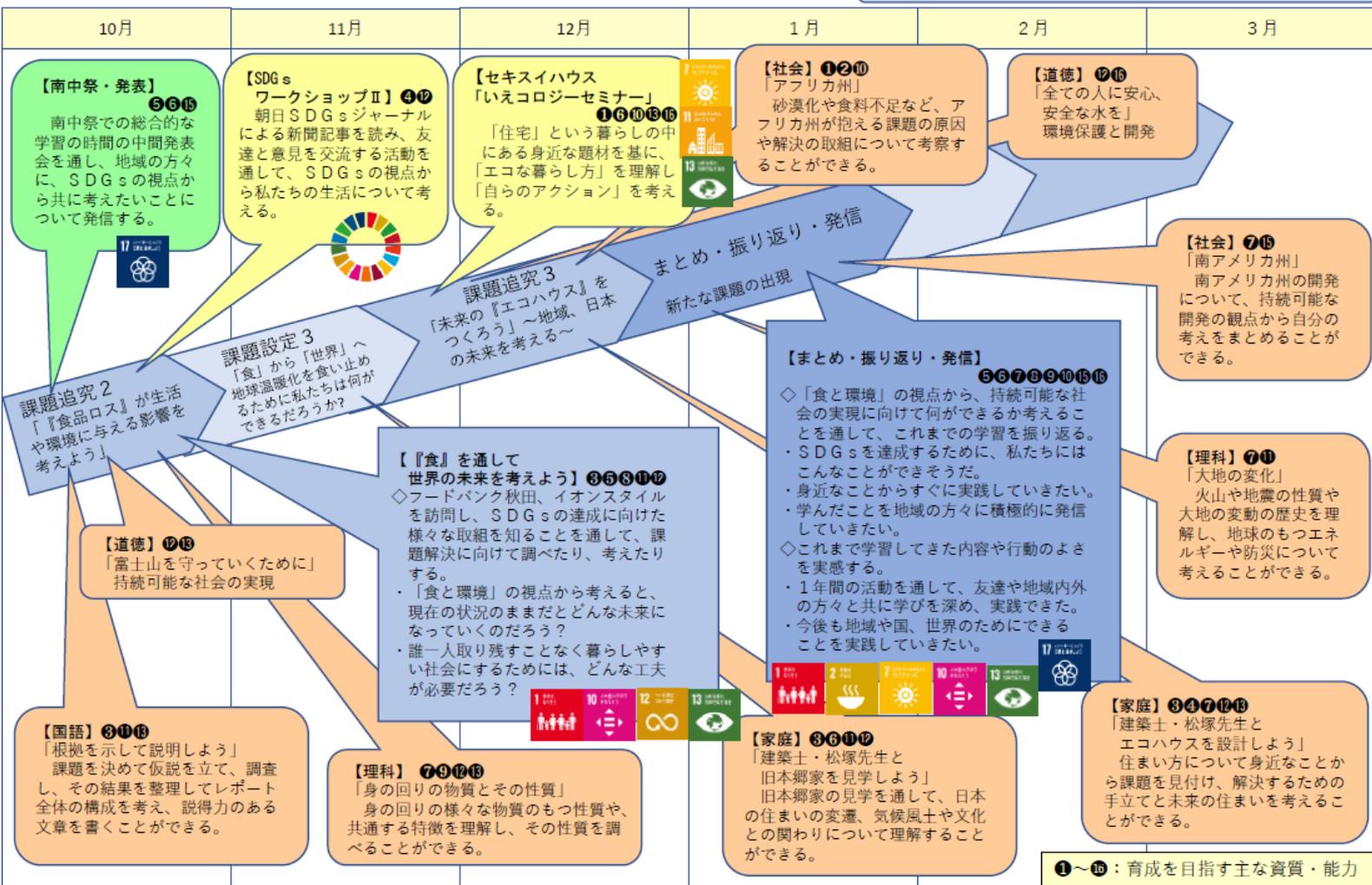
<学習テーマ> SDGsの達成のために・・・



①～⑯：育成を目指す主な資質・能力

第1学年ESDストーリーマップ「食と環境」(2)

<学習テーマ> SDGsの達成のために・・・



①～⑯：育成を目指す主な資質・能力

令和4年度 大曲南中学校 ESDカレンダー(2年生)

教科等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
国語	広がる学びへ アイスプラネット 枕草子	多様な視点から クマゼミ増加 の原因を探る 魅力的な提案 をしよう	情報社会を 生きる メディアを 比べよう	言葉と向き合う 短歌に親しむ 短歌を味わう	人間の絆 盆土産 字のない葉書	論理を捉え て モアイは語 る	いにしえの心を 訪ねる 平家物語 漢詩の風景	価値を語る 君は最後の晚餐を 知っているか 魅力を効果的に伝 えよう	表現を見つめる 走れメロス 構成や展開を工夫して書こう 国語の学びを振り返ろう				
社会	日本のさまざまな地域		B 日本の諸地域		九州地方 関東地方	中国・四国地方 東北地方	近畿地方 北海道地方	中部地方	A 地域の在り方				
数学	式の計算	連立方程式	1次関数		平行と合同		三角形と四角形		確率	データの比較			
理科	B 化学変化と原子・分子 化学変化と物質の質量 化学変化とその利用		A 生物のからだのつくりとはたらき 動物のからだのつくりとはたらき 植物のからだのつくりとはたらき		B 天気とその変化 雲のでき方と前線 大気の動きと日本の天気		B 電気の世界 電流の性質 電流と磁界						
外国語	C シンガポールの観光地	AC 食べ物世界旅行	職業体験と将来の夢		C ホームステイでの国際交流体験	C ユニバーサルデザインのめざすもの		調査・発表の仕方を学ぼう	C 世界遺産の価値とは	C 自然の偉大さと命の大切さ			
音楽	曲の仕組みの秘密を探ろう		思いが伝わる合唱を創り上げよう				C オペラの魅力を味わおう	C 日本の伝統音楽に親しみそのよさを味わおう	C 世界の多様な発声を味わおう				
美術	私の色	夢のカタチ	生活を楽しむ ～オリジナル手ぬぐい～				ポスターで伝える		心を贈る				
保健体育	C スポーツが心身と社会性に及ぼす効果	バレーボール		A 生活習慣病とその予防	現代的なリズムのダンス	C 剣道	B 自然災害に備えて						
技術	情報に関する技術					A 生物育成に関する技術							
家庭	C 資源を大切にしたい衣生活 生活に役立つ小物づくり				BC 地球に優しい住生活		AC 調理と食文化		AB 環境に配慮した消費生活				
総合的な学習の時間	B エネルギーと環境 ～社会とのかかわり～ ①環境エネルギー学習(施設見学) ②緑のカーテンプロジェクト ③気候変動のミステリー授業 ④エコシティをつくろう								上級学校調べ 適切な進路選択に向けて上級学校について知ろう				
特別活動	自分たちの学級を作ろう	将来の生き方と学習	『働く』ことについて考える		自分の力をボランティアに生かす	学ぶための制度と機会	適性を生かした進路を考えよう						
道徳	・まるごと好きです ・先輩	・留学で考えさせられたお金の ・また食べられるのに ・場所をふきとせよ	・たったひとつのたからもの ・C 六千人の命のヒザ ・C 国境なき医師団・ ・貧戸親子	・伝えるということ ・一枚のはがき ・清掃はやさしさ	・たすきとガパン	・怒りの救助活動 ・SNSとどうつき合う? ・夜の果物屋	・違反捕獲 ・五万回斬られた男	・わたしのせいじゃない ・最優秀 ・譲る気持ちはあるのに	・狂言師・野村萬葉物語 ・8 剣路道原を守れ ・飛鳥へ、そしてまた見ゆ子へ	・復讐とどまらず、復讐を語りかける目 ・本当の友達って	・C 海と〜樫野の人々 ・三年生を送る会 ・C 風に立つライオン	・ハッチを閉めて、知らない世界へ	

A: 食育
B: エネルギー教育
C: 国際教育

身に付けたい能力・態度
コミュニケーションの能力
批判的に考える力
多面的・総合的に考える力
進んで課題を見つける力
学んだことを発信する力
生活に活用する力

■野菜栽培（有機野菜栽培）とアルミ缶・古紙回収



J Aの指導



野菜の苗植え



ゴーヤの緑のカーテン



省エネクッキング講座



スーパーで食品ロス調査



フードバンク訪問



地域の方からの回収依頼



集まったアルミ缶と古紙

総合的な学習の時間（食と環境）

給食由来の有機肥料を使って

J A職員の指導で

野菜栽培



総合的な学習の時間（食と環境）

大曲農業高等学校
博士号教員による出前授業
「微生物の働きと有機肥料」



総合的な学習の時間（食と環境）

栽培した野菜を使っでの省エネクッキング講座



総合的な学習の時間（食と環境）

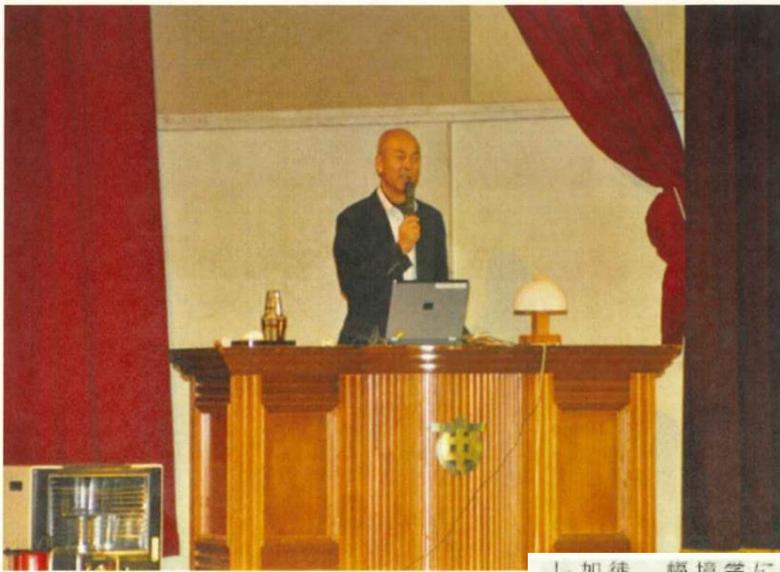
食品の流通、食品ロス対策について、秋田市のスーパーで学ぶ



■小学校との合同でのクリーンアップ活動



■環境を主題とした講演会



平成 25 年 11 月 29 日 (中村征夫氏)

生き物写真家の藤原さん
**プラごみ対策は
 できることから**

大曲南中で講演会

生き物写真家作家の藤原クニミが野生動物の命を奪う幸一さんの講演会が、大曲市 危険があると説明した。藤原の大曲南中学校体育館で スリランカでアジアゾウが行われた。「プラスチック感 森の中に捨てられたビニール 星・地球」と題し、プラスチック 袋を食べて命を落とし、廃タックごみが動物や地球環境に スムニア州で漁業用のプラスチックごみが絡まったオットセイ 藤原さんは秋田市出身。野イが溺死している現状を紹介 生生物の生態に視点を通じた 介。「自分の生活にどのよう 写真や動画を撮るため世界中 なプラスチック製品が使われ を訪れている。動物をテーマ ているかを見直して、自然素 村の物を適量、再利用できる 物の物を使うなど、自分でできる 境問題の講師を務めるなど、 ことからのごみ対策をやってみ 幅なく活動している。」

8日の講演会には、全校生徒と保護者計約140人が参加。藤原さんは、自身で撮影した映像を基に、プラスチックごみの問題について講演する藤原さん

講演を聞いた大川美緒さん(2年)は「世界中にプラスチックごみがあふれていることが分かった。できるだけごみが出ないように生活に心掛けたい」と話した。

講演会は、大曲南中PTAの事業として実施した。(佐藤和輝)

令和3年12月19日(日)
 秋田魁新報

令和 4 年 7 月 4 日 (月)
 13:20~15:10
 大曲南中学校体育館

○ **講演**
 講師プロフィール



～いま伝えたい地球温暖化最前線国・キリバスのこと～

ケンタロ・オノ氏 一般社団法人日本キリバス協会代表理事
 1977年宮城県仙台市生まれ。1993年にキリバス共和国に単身で高校留学し、高校卒業後も引き続き同国に在住。2000年に日本国籍者として初めてキリバス共和国に帰化。会社経営をしながら、キリバス政府関連の様々な役職を歴任したほか、2003年から2011年まで、地球温暖化問題で世界的に脚光を浴びるアノテ・トン大統領(当時)の私設政策補佐官も務めた。2011年から仙台在住。2017年に一般社団法人日本キリバス協会を設立。キリバスでの実例を題材にした地球温暖化・気候変動に関する講演活動を、日本各地や世界各国で行っている。前・在日本キリバス共和国名誉領事・大使顧問。

ワールド・気候スタディーズESD/SDGs オンライン交流授業（セントルイス中学校2年生）



ワールド・気候スタディーズESD/SDGs オンライン交流授業（セントルイス中学校2年生）



AKT 秋田テレビ

キリバスニュースター紙
掲載

AKT 秋田テレビ ニュース報道

Te Kaongoraa Mai Tiaban

Te itabon newe i marenaia 2 taian reirei

From Kentaro Ono
Ara itabon Newstar
mai aon Tiaban

N TE Katenibong, te wiki aei, ao e a waakinaki te reitaki rianon te inanete (online exchange) i marenaia aatain Form 2 n te reirei ae St Louis High School i aon Tarawa Teinainano ma ataein Form 3 n te reirei ae Omagari-minami Junior High School, Omagari City, Tiaban. E waaki te reitaki aei man te aon 12 n te tawanou.

E aia reitaki ataein reirei aikai i aon kaotan rongorongan abaia, aia

katei ao aon maiuia, n i kotaki ma tibw atibwaan taian kakaewenako ma aia luratara i aon Bibitakin Kamoun Boong, ana kouru Botakin te Aonaaaba ae te UN ae Sustainable Development Goals ke te SDGs ao kaooan taia aika a na roko ake a miakina ke "Future They Want".

Oin te kantaininga man te reitaki aei bwa a na karikiri kea te iraoao i marenaia ataein te rororirikirike i Kiribati ma Tiaban, ataan n aon abaia ao taian kakaewenako i aon abaia ao te Aonaaaba ae e bwamin n te



Ataein Form 2 n St Louis High School i Teorereke (i eta).

aro are a na ikarekebai ni waski nakon kanoan taia aika a na roko ake aminkiana.

E kabobongaaki te reitaki aei irom te Japan Kiribati Association ma te Conference of Earth Environment from Akia i aon Tiaban, ao ni boutokaaki



Ao kautabola mai Tiaban man Form 3 man Omagari-minami Junior High School, Omagari City.



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

Member of



UNESCO
Associated
Schools

目的 E：教育

「学習で身に付けたい力」

- ・ 批判的に考える力
- ・ コミュニケーションを行う力
- ・ 多面的・総合的に考える力
- ・ 進んで課題を見つける力
- ・ 学んだことを発信する力
- ・ 生活に活用する力

大曲南中ESD

【学習で身に付けたい力】

- ・ 批判的に考える力
- ・ コミュニケーションを行う力
- ・ 多面的・総合的に考える力
- ・ 進んで課題を見つける力
- ・ 学んだことを発信する力
- ・ 生活に活用する力

E S D
永遠に 住み続けるための 土台づくり

大曲南中ESD キャッチフレーズ

目的 **SD**：持続可能な開発

「持続可能な開発について
考え実践する力」

- ・ **SDGs**に関する知識・技能
- ・ **SDGs**達成に向かう意欲
- ・ 課題解決方法の考察
- ・ 行動変容、実践力

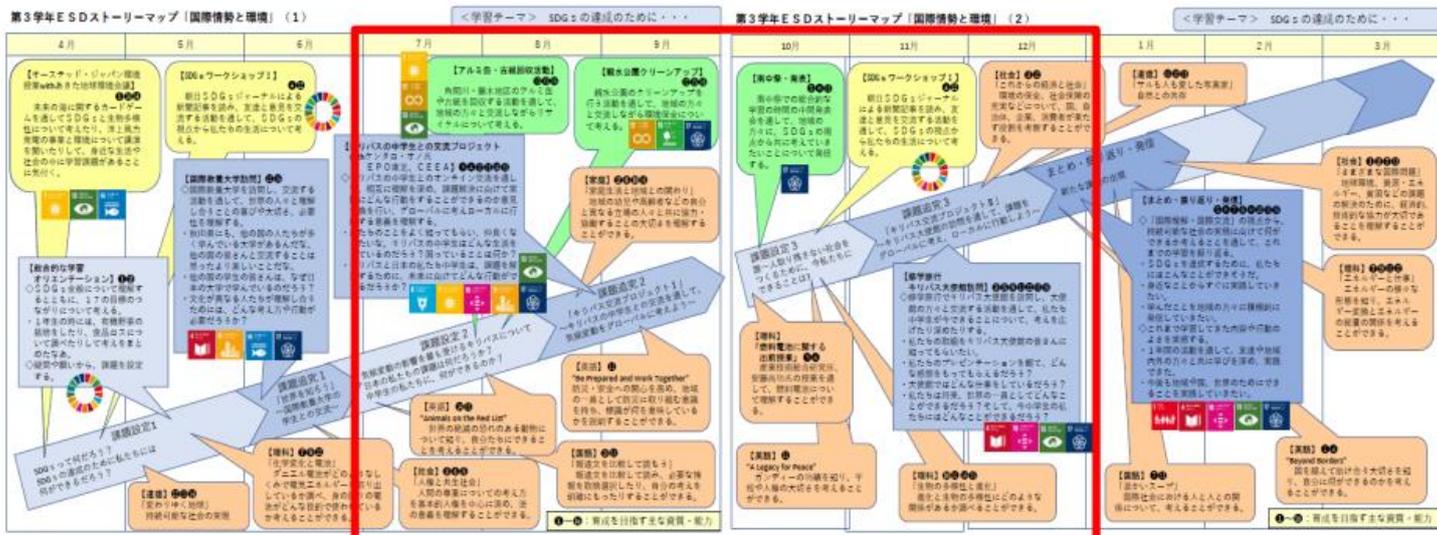
ESDカリキュラムの実際

＜ESDの視点に沿った総合的な学習の時間＞

『総合的な学習の時間のテーマ』

- 1年生 … 食育
- 2年生 … エネルギー教育
- 3年生 … 国際教育

ESDストーリーマップ 3年生



生徒の変容(振り返りから)①

○講演会・SDGsワークショップ(7月4日)

○オンライン交流(10月26日)

キリバスのごことも遠い国と考えるのではなく、同じ地球上のごこととして考えて自ら行動したいです。

私たちが平等に、平和に活躍できる笑顔あふれる未来を創るのは私たち自身です。周囲の人たちだけでなく世界に発信することの素晴らしさを学ぶことができました。これから一緒に世界中のみんなが幸せになれる未来を創りましょう。

生徒の変容(振り返りから)②

○講演会・SDGsワークショップ(7月4日)

ケンタロ・オノさんの最後の質問「あなたはこの子たちの目を見て言えますか?『あなたたちはもうすぐここに住めなくなる…』と」私は言えないと思います。世界の人々の大切な「命」を守るために、今自分ができることを最大限に実行したいです。



○オンライン交流(10月26日)

気候変動の問題は大きすぎて、子どもの私たちにできることは少ないです。でも、年齢や地位、人種、言葉の壁を壊してしまえば、たくさんの知恵が1つになって解決の道へとつながっていきます。そうすれば、国や島、生きものだけでなく、地球や「未来」まで救えるのです。そういうことを世界に広める人間として生きていきたいです。

☆Episode 生徒とケンタロ・オノさんのQ&A

Q:生徒

キリバスの人々はしょっぱい飲み水を飲んでいると聞きましたので、キリバスに、浄水場をつくるのはどうでしょうか?

A:ケンタロ・オノさん

僕の話聞いて、ただ「かわいそう」、「大変だ」だけではなく、「こんな解決案はないのか?」と前向きに考えてくれたこと、そしてそれを表現してくれたこと、本当に素晴らしいことです。どうもありがとうございました。



浄水場のアイデアはとても素晴らしいのですが、キリバスでは少し難しい問題があります。水から塩分を取るためには、海水淡水化装置というものを使います。ただこれはものすごく電力を使うのと、交換部品の値段の高さ、そして水から取り出した塩分をそのまま海に流してしまうと、海の生き物や海辺の植物に、ものすごく大きな影響があります。とは言え、水無しには人間は生きていけないので、新しい水源を探したり、雨水タンクを多く設置したり、最後の手段として海水淡水化装置も設置したりしています。

今ある問題をどうすれば解決できるのかを考えることは、広い視点・一歩下がって見る力を持っていないとできないのですが、高橋さんはすでにもう持っているようで、本当に素晴らしいことです。ぜひこの先も広い視点・一歩下がって見る力を持って、SDGs達成だけではなく、自分の人生も歩んでいってくださいね。



学びの成果

- 全ての生徒が、気候変動を**当事者意識**をもって捉えることができるようになった。
- 足下からの行動も大切であるが、**グローバルな視点**で、世界を視野に入れた考えをしなければならなかった。
- 気候変動を軸として、様々な問題が繋がっている。その解決のために**自分ができることに、世界の人々と一緒に取り組もう**という意識が生まれた。

誰一人取り残さない



連携の成果

(東北地域ESD活動支援センター、あきた地球環境会議、日本キリバス協会等)

- 普段の学校では**体験できない学び**を提供してもらえ
る。
- より**グローバルな視点で、SDGs**を考えることがで
きる。
- 教員が「**社会に開かれた教育課程**」実施の**具体的な
イメージを共有**できる。
- 実施プログラムが**探究的な授業づくりの参考**なる。
- 学校の取組を**発信**できる。
- 連携団体の**ネットワーク**を活用して、**他団体や企業
等とも連携**できる。



ワールドピースゲーム

4つの国と国際機関等に分かれ、15時間で23のクライシスを解
決しつつ、各国の資産も増やすことが勝利条件となるゲーム

持続可能な社会
を築くのは
私たちだ！



メディア掲載

全国環境美化教育優良校

世界にも視野を広げる

積極的な奉仕活動を表彰

奉仕活動に積極的に取り組む大仙市の中学生が相次いで表彰された。活動を通じてどんなことを感じたのか。それぞれの思いを聞いた。

大曲南中学校(おま)は、毎年夏には地域住民にチラシを配布し協力してもらっている。高齢者宅などに向くこともある。地域の清掃活動も恒例となっており、地元の小業(食品容器環境美化協会主催)で、2022年度最優秀校(4校)のうち文部科学大臣賞に選ばれた。

生徒は長年、さまざまな環境美化活動を展開してきた。前生徒会長の菅原大翔さん(3年)は「団体の先輩方の取り組みを継承してきた結果、このような賞をもつてうれしい」と語る。

大曲南中



20年以上前から、リサイクルのためアルミ缶古紙を回収。校内で集めているほか、

今年には環境問題をテーマにした講演会を開催。地球温暖化による海面上昇で水没の危機が指摘される太平洋の島国キリバスについて講話を聞き、同国の中学生とオンラインで交流した。

前生徒会副会長の橋本暖さん(3年)は「普段の生活で温暖化を感じなかったけど、空き缶回収箱を前にする(右から)橋本さん、菅原さん、佐藤さん」

他にも、給食の残りで作った肥料を使い校庭で野菜を栽培し、食品ロスの削減に向けた近隣スーパーの取り組みなどを調べている。

キリバスでは実際に影響が出ていることが分かった。節電や節水などできることを少しでも温暖化を抑止したいと思つたと振り返る。

島田校長は「生徒が世界的な問題を学んで視野を広げ、自分事として捉えることで普段の行動も変化している。自分たちの未来を、世界の一員として考えられるようになった」と述べた。

取り組みは今すぐできることが多い。ごみをきちんと処理したり、食品ロスを減らすため賞味期限の近いものから買つたり。大人になっても、子どもたちと一緒に考えていきたい」と話した。

食品容器環境美化協会は飲料業界などの6団体で構成。全国の都道府県から推薦された小中学校の中から最優秀校4校のほか優秀校6校、優良校19校を選んだ。(佐藤将弥)

<文部科学大臣賞>秋田県大仙市立大曲南(おおまがりみなみ)中学校

身近な環境保全で世界を笑顔に

食べ残しから野菜が育つ活動発信

清涼飲料やビールなどの飲料業界6団体で構成する公益社団法人食品容器環境美化協会(略称・食環協、会長 那須俊一氏)が、地域と協働で環境美化活動を行う小・中学校などを支援しようと、2000年に開始した環境美化教育優良校等表彰事業。23回を数える本年度は、全国の都道府県より推薦され

た小・中学校等20校の中から、最優秀校4校が決定した。児童生徒が主体的に取り組む優れた活動をシリーズで紹介する。初回は、文部科学大臣賞を受賞した秋田県大仙市立大曲南中学校だ。「第23回環境美化教育優良校等表彰式」は1月27日15時半から、浅草ビューホテル(東京都台東区)で開催される。

022年度は、気候変動下で起きているキリバスの現状をテーマにした講演会を実施。その後、キリバスの中学生とオンライン交流を続ける中で、自分たちの地域を流れる川が汚いと、世界の海にも悪影響を与えることを痛感した。

市内を流れる雄物川と橋手川の合流地点に位置する同校。田畑が広がる恵まれた環境の下で、地域に根差した活動を行っている。とりわけ活発なのが、保護者や行うアルミ缶・古紙回収だ。生徒が事前に告知のチラシを校区の各戸に配布し、回収当日は高齢者宅に出向き、率先して回収をお手伝い。また、小学校と共同で

校の小学校を訪れ、当日の段取りなどを説明。終始旗振りに徹する。ほかにも、近隣の公園で住民とともに清掃を行うなど、美化活動が貴重な交流の場となっている。こうした取り組みがベイスとなり、ユネスコスクールに認定されてからは、ESD(持続可能な開発のための教育)の視点を重視。「食育」「エネルギー教育」「国際教育」をテーマに活動を深

みをもっと発信していきたい」と意気込む。さらに、同校では環境問題を扱った講演会を開催。世界を舞台に活躍する講師の報告を受けて、その生の声を生かそうと、生徒は他国で起きていたものが肥料になり、野菜栽培ができる取り組みを捉えるようになった。2

食環協 第23回環境美化教育 最優秀校4校決定

<連載①>



給食残さの肥料で作った野菜を使って料理に挑戦



世界の現状に触れ、身近な地域環境保全に尽くす生徒